



リンドウ (深山秋)



→3年連続1等賞を獲得した

白神りんどう

経営規模
○リンドウ……40a



桂田 浩樹さん
千加子さん

(藤里町粕毛)

ゼロからのスタート

仲間と共に歩んだ

顕彰者への道

平成25年から27年まで、種苗交換会の農産物展示「切花（リンドウ）」部門において、1等賞（秋田県知事賞）を3年連続で受賞し、初出品した25年に最高賞の農林水産大臣賞を受賞、26年には全農秋田県本部運営委員会会長賞にも輝いた桂田浩樹さんは、今回の種苗

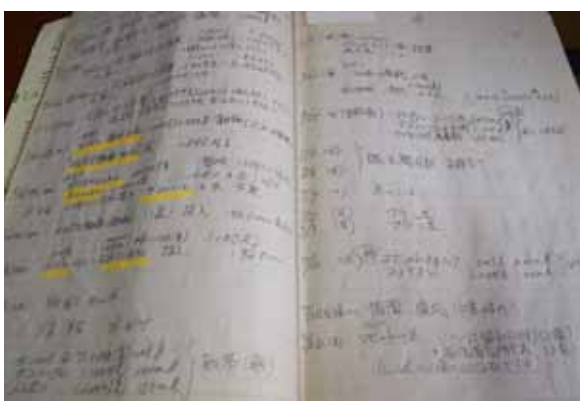
交換会でその功績を称えられ、顕彰者として表彰されました。

栽培を始めたきっかけはと伺うと「そこにりんどうがあったからかな」と笑顔で桂田さんは話してくれました。減反政策で休耕田を利用したりりんどう栽培が始まり、自宅付近でりんどうをよく見かけるようになり、興味を持ったそうです。決め手となったのは6年前に仙台の生花市場に行った際、白神りんどうの需要の高さに驚き栽培を決意しました。桂田さんも圃場は休耕田を利用し、ミネラル豊富な白神山の水を引いています。また、高品質なりんどうを栽培するために、こまめな除草と早めの薬剤散布を徹底して病害虫を予防しています。

桂田さんは、栽培を始めてから欠かさずに行っていることがあります。それは、作業を行った際に、作業内容をノートにまとめることです。耕起をした日、散布した肥料の量などノートにはびっしり記入されています。その他にも、桂田さんが『師匠』と呼んでいる先輩農家からいただいたアドバイスなども細かく書かれており「ゼロからのスタートだったが、先輩農

家が近くにいるので何でも相談できた。逆にいなかったらこのような賞をもらえないりんどうはできていないと思う。とても心強い仲間です」と桂田さんは教えてくれました。

最後に顕彰を受けた感想と今後の目標について伺うと「3年連続のプレッシャーと闘って受賞できたことは本当にうれしく自信になりました。また、今回の顕彰を受け、今後も今まで通り手を抜くことなく栽培を続け、白神ねぎのように、全国ブランドへ向けて盛り上げていきたいです」と話してくれました。



↑作業内容が書かれているノート